

焼津市歴史民俗資料館

Yaizu City Museum of History and Folklore

Museum Letter



資料館だより
119号



おいしい焼津

いつから焼津はおいしいの？



駿河湾に面する焼津には、海とともに歩んできた歴史があり、海から数々の食材を生み出してきました。焼津生まれ、焼津発信の「鰹節」「ツナ缶」「塩サバ」「黒はんぺん」「なると」といった日本中の食卓で親しまれている水産加工品は、いつ頃、どんな風に生まれたのでしょうか。その歴史に迫ってみます。



ツナ缶は、マグロの油漬け缶詰のことです。ツナ缶の歴史は、昭和4年(1929)、焼津水産学校(現静岡県立焼津水産高等学校)と静岡県水産試験場が協力して輸出用のツナ缶の試作に成功したことに始まります。

日本に誕生して100年
ツナ缶

焼津では「はんぺ」と呼びます。その由来ははっきりしませんが、元々は漁の後で配分される雑魚をすり身にして食べたことが始まりのようです。現在では、地元焼津はもちろん、県外にもその名が知られるようになりました。

焼津のソウルフード
黒はんぺん



塩サバが焼津の特産品となったのは、明治22年(1889)に東海道線が開通してからです。港、加工場、駅が近接する焼津の塩サバは、他の産地を圧倒し、かつては市内に数十軒もの製造業者がありました。特に、京都を中心とした関西地方で好まれていて、「焼津の塩サバでなければ」という取引先のため、伝統的な製法での製造が受け継がれています。

関西で大人気
焼津の塩サバ

和食の根源
鰹節

焼津は、全国でも有数の鰹節の生産地です。カビ付けなどをおこなう現在の鰹節製造が始まったのは江戸時代に入ってからで、明治期以降、技術改良の努力を重ねた結果、焼津の鰹節は、その品質と美しさから高い評価を受けるようになります。

都に献上
**古代の
かつおぶし!?**

奈良の都、平城京から出土した木簡からは、駿河湾で捕れたカツオを「煮堅魚(にかたうお)」「堅魚煎(かつおのいろり)」といった加工品にして、はるばる奈良の都まで運んでいたことが記されています。「煮堅魚」は、現在の「鰹節」の原型であると言われています。



この壺で
都まで運んだとされて
います!



古代人も
食べていた
カツオ



写真は、古墳時代の集落跡である宮之腰(みやのこし)遺跡から見つかった「カツオの骨」です。古代の人たちが、カツオを食べていたことがわかります。

毎年11月23日の
皇室の「新嘗祭」
献上されています



開催日: 令和7年9月28日(土)から令和8年2月1日(日)
時間: 9時~17時
場所: 焼津市歴史民俗資料館
入場料: 無料

焼津市歴史民俗資料館では、「おいしい焼津 第一歩 すべての「食」は駿河湾に通ず」と題して特別展を開催中。この機会に焼津の食のルーツを辿ってみてはいかがでしょうか？

背景上段: 佐藤道外画『明治大正焼津並往来絵図』
背景下段: 鈴木兼平画『焼津漁業絵図』



今回の学芸員の推しを担当するのは…
大学を卒業したばかり、社会人1年目。
今年度4月に当館に赴任してきたばかり
の新人。

神谷颯汰学芸員です。
子ども教室では小学生に大人気！そん
な神谷学芸員の推しは…

招き猫の置物 です

なんと縁起のいい！来年もいい年になりそうで
すね！

では、早速よろしくお願いたします。

招き猫とは、手を上げて座っている猫の像で
す。福や金運、お客さんなどを招くといわれる日
本に古くからある縁起ものです。

招き猫の由来については、いくつかの説が存在
しています。そのうちのひとつとして、有名なもの
で焼津中里の出身として知られる井伊直孝の話が
あります。その話によれば、井伊直孝が江戸で鷹



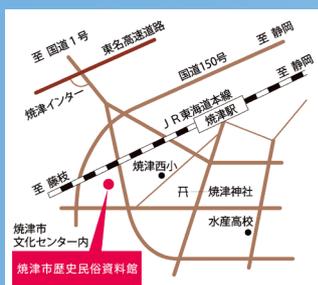
狩りをした帰りに貧しい寺の前を通りがかった
際、その寺の中に手招きをする猫がおり、寺
に入ると辺りは突然暗くなり雷雨になりました
が、猫が招いたおかげで雨宿りをする事が出
来たそうです。そのお寺が現在の豪徳寺と呼ば
れるお寺です。また、その豪徳寺というお寺の
木の下で井伊直孝が雨宿りをしていた時、寺の
和尚の飼った猫が手招きをするような仕草をし
ていたため、猫に近づいたところ雨宿りをしてい
た木に雷が落ち、難を逃れたという説もありま
す。これらの話が招き猫の由来として伝わり、
豪徳寺では猫の手招きで寺が栄えたことから招
猫堂を建てたそうです。

そして、現在では多種多様な招き猫が作られ
ていますが、招き猫は上げる手や色によって意
味が異なっていることをご存じでしょうか。所
説はありますが一般的には、左手をあげている
ものはお客さんを、右手をあげているものは金
運を招くと言われていました。中には、両手をあ
げているものもあります。手をあげる高さも重要

で、手の高さが耳を超えているほど大きな利益があるそうです。
色では、一般的な白い猫は開運や招福、黒い猫は厄除けや家内安
全、赤は無病息災や病氣回復、金は財運や商売繁盛を意味してい
るそうです。

来年の干支は午年であり、猫は残念ながら干支には入れません
でしたが、かの名馬競走馬メイショウドトウをはじめ、馬と猫
は比較的相性が良いなんて話もあります。午年を迎えるにあたつ
て、午と一緒に猫様を迎えてみるのも良いかもしれません。招き
猫をおうちにお迎えする際は、色や手に注意して神棚や玄関にお
いてあげてください。

招き猫の由来に焼津を代表する偉人井伊直孝がかかわっていた
なんて!?びっくりです。さっそく新年の準備のため招き猫を買い
に行きなきゃですね！



【発行・問合せ】

焼津市生きがい交流部文化振興課 資料館担当
〒425-0071 静岡県焼津市三ヶ名 1550
☎ 054-629-6847
表紙写真：小川港魚河岸食堂

